



## 趣意

青根は丹沢の北側の山懐にある小さな集落です。青根のような小さな集落は日本中にたくさんありましたが、社会の変化とともに人口が減り、過疎化が進んでいます。

麻布大学の村山史世先生をリーダーとするグループは2010年から学生とともにこの青根集落と交流を始めました。2011年には麻布大学の「あざ」と青根の「おね」を合体させて「あざおね社中」として名付け、さまざまな農業活動や里山の動植物の調査を続けてきました。その活動は地元の人をも巻き込み、青根集落に活気をもたらしました。

こうしたことが評価されて、2016年には国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）の連携事業に認定されました。また環境省モニタリングサイト1000の調査地点の一つにも選ばれています。

今回の企画展示では、青根集落を歴史を含め紹介するとともに、このあざおね社中の活動の内容を紹介することにしました。

この展示は麻布大学いのちの博物館が力を入れている、麻布大学と地域との連携活動を表現したものといたします。ご指導いただいた村山先生とご協力いただいた関係各位・機関にお礼申し上げます。



「あざおね社中」は多くの仲間と田んぼで田植えや稲刈りをし、地元の祭りにも参加しています。また田んぼの生き物や地元の昔の暮らしの調査もしています。



平坦地の少ない青根では林業と養蚕業が重要な産業でした。山で木を切り出し、炭焼き小屋で炭を焼きました。



材木を取り出す道具類



木挽き(ノコギリ)



炭焼き小屋



背負子で炭俵を運ぶ



養蚕場のようなす(昭和4年)

モノクロ写真は写真集「山河幾星霜」(津久井郡農業協働組合)より



カイコ



繭



回転まぶし(繭場となる道具)



管巻き

カイコはガ(蛾)の1種で、クワを食べて育ちます。その幼虫がカイコで、その繭の糸をたばねて生糸をとって作ったのが絹織物です。



ヤマアカガエル



イモリ



カヤネズミ

里山の動物

麻布大学いのちの博物館 2018年2月13日—4月28日

後援： 相模原市・相模原市教育委員会

協力： 相模原市立博物館・青根地域振興協議会・あざおね社中と与する上青根の会